

II 各教科の正答率、問題の内容及び所見・解説

7 英語（学校選択問題）

(1) 正答率

問題	配点	正答率		一部正答率		誤答率		無答率		通過率 率= 得点計 (人数×配点) (%)	
		数	(%)	数	(%)	数	(%)	数	(%)		
1	No. 1	2	274	90.1	0	0.0	30	9.9	0	0.0	90.1
	No. 2	2	289	95.1	0	0.0	15	4.9	0	0.0	95.1
	No. 3	2	282	92.8	0	0.0	22	7.2	0	0.0	92.8
	No. 4	2	290	95.4	0	0.0	14	4.6	0	0.0	95.4
	No. 5	2	290	95.4	0	0.0	14	4.6	0	0.0	95.4
	No. 6 (1)	3	287	94.4	0	0.0	17	5.6	0	0.0	94.4
	No. 6 (2)	3	247	81.3	0	0.0	57	18.8	0	0.0	81.3
	No. 6 (3)	3	155	51.0	0	0.0	149	49.0	0	0.0	51.0
	No. 7 (1)	3	196	64.5	35	11.5	73	24.0	0	0.0	70.3
	No. 7 (2)	3	200	65.8	33	10.9	71	23.4	0	0.0	71.8
No. 7 (3)	3	206	67.8	38	12.5	60	19.7	0	0.0	75.7	
2	問1	3	249	81.9	6	2.0	49	16.1	0	0.0	82.9
	問2	4	260	85.5	18	5.9	25	8.2	1	0.3	88.9
	問3	3	292	96.1	0	0.0	12	3.9	0	0.0	96.1
	問4	4	67	22.0	175	57.6	46	15.1	16	5.3	52.3
	問5	4	81	26.6	14	4.6	201	66.1	8	2.6	29.0
	問6 (1)	3	274	90.1	0	0.0	29	9.5	1	0.3	90.1
	問6 (2)	3	213	70.1	0	0.0	89	29.3	2	0.7	70.1
問7	4	224	73.7	10	3.3	57	18.8	13	4.3	75.2	
3	問1	3	91	29.9	5	1.6	177	58.2	31	10.2	31.7
	問2①	3	246	80.9	0	0.0	56	18.4	2	0.7	80.6
	問2②	3	127	41.8	0	0.0	171	56.3	6	2.0	41.8
	問2③	3	161	53.0	0	0.0	136	44.7	7	2.3	52.6
	問3A	3	63	20.7	8	2.6	214	70.4	19	6.3	22.1
	問3B	3	142	46.7	3	1.0	135	44.4	24	7.9	47.0
	問4	3	151	49.7	92	30.3	36	11.8	25	8.2	68.3
	問5	4	38	12.5	33	10.9	144	47.4	89	29.3	18.8
	問6 (1)	3	52	17.1	38	12.5	142	46.7	72	23.7	23.9
	問6 (2)	3	20	6.6	5	1.6	145	47.7	134	44.1	7.6
問6 (3)	3	61	20.1	2	0.7	96	31.6	145	47.7	20.4	
4		10	36	11.8	249	81.9	14	4.6	5	1.6	65.3

(小数第2位を四捨五入しているため、%の合計が100にならない場合がある。)

(2) 問題の内容

① 会話やまとまりのある英語を聞いて、概要や要点を聞き取る。

No. 1～3 博物館への行き方、昨日の友人の行動、新しい机の置き場所を決める場面等、日常的な場面の会話を聞いて、絵の中から、質問に対する答えとして適切なものを選ぶ。

No. 4、5 水を渡す場面や、駅への道を尋ねられる場面といった、日常生活における「ある場面」を説明する英文を聞いて、質問に対する答えとして適切な表現を選ぶ。

No. 6 新しく開店した菓子店、Sweet Saitamaについての説明を英語でおこなっている。その説明を聞き取り、内容についての質問に対する答えとして適切なものを選ぶ。

No. 7 学校新聞の取材でMihoがMr. Fordにインタビューをしている。その会話を聞き取り、内容について英語で答える。

2 Haruka、イギリス (the UK) に住むPhilとALTのMr. Belleの会話と発表である。日本と外国の生活や文化の違いについての複数のまとまりのある英文を読み、あらすじや大切な部分を把握し、場面に応じて英語で適切に表現する。

3 Tomokoは水族館で見た生物をきっかけに、海の生物の共生について調べ、英語で文章を書いた。この英文を読んで、あらすじや大切な部分を読み取り、内容についての質問に答える。

4 小学生の自然体験についての英文を読んで、自分の考えを〔条件〕と〔記入上の注意〕に従って、40語以上50語程度の英語で書く。

(3) 所見・解説

1 会話やまとまりのある英語を聞いて、概要や要点を聞き取る力をみようとしたものである。

No. 1 会話を聞いて、Mary がどのように博物館への行ったかを表す絵を選ぶ問題である。会話では、“But I went there by bike.”と言っているので正答はDである。

No. 2 会話を聞いて、Kevin が昨日何をしていたかを選ぶ問題である。“He was practicing soccer.”と言っていることから、正答はBである。会話全体をとらえたうえで、soccer や baseball 等の情報が何を示しているかを整理して聞き取ることで正答を導くことができる。

No. 3 会話を聞いて、新しい机を部屋のどこに置くかを答える問題である。“in the corner by the window”と“by the plant”と述べているので、正答はBである。

No. 4 帰宅した Peter に彼の母親が水を渡す場面で、彼の母親が Peter に何と言うかを問う問題である。「どうぞ」をあらわすAが正答である。

No. 5 Emi が女性に駅までの道を尋ねられる場面である。Emi も駅に向かう途中であり、Emi は女性を連れていってあげようと思っていることから、正答はCである。状況に応じて適切な表現を選択することが大切である。

No. 6 新しく開店した a candy shop である Sweet Saitama についての話を聞き取り、英語の質問に対する答えとして最も適切なものを選ぶ問題である。

(1) 質問は「the new candy shop はどこにあるのか」というものである。“A new candy shop, Sweet Saitama, just opened yesterday on the shopping street near Keyaki Station.”から、正答はAである。何を問われているかを理解することで、正答を導くことができる。

(2) 質問は「the special opening event は何日間か」というものである。“opened yesterday”, “a lot of people are at the shop today”, “This event finishes tomorrow.”と言っているので、正答はCである。

(3) 質問は「the new candy shop について正しいものはどれか」というものである。“The shop is open from Wednesday to Sunday.”と話していることから、正答はDである。

No. 7 Miho と Mr. Ford の会話を聞き取り、英語の質問に対する答えとなる英文を完成させる問題である。

(1) 質問は「Mr. Ford はどんなときに幸せか」というものである。Mr. Ford が “I’m happy when students talk to me in English.”と言っているので、正答は talk to him となる。

(2) 質問は「Mr. Ford は、日本でバードウォッチングを楽しむのにどこによく行くか」というものである。Mr. Ford が “I often go bird watching at the lake near my house.”と言っているので、正答は lake near his となる。代名詞を適切に使えるようにしておきたい。

(3) 質問は「Mr. Ford は、中学生のときに何になりたかったのか」というものである。Mr. Ford が “Well, I wanted to be a doctor, then.”と言っている。この then は Miho が質問している “when you were a junior high school student?”を指しており、正答は a doctor となる。

「聞くこと」の学習においては、No. 1 のような短めの英語を聞くことから始め、英語を聞き取り、絵や図表等の情報につなげることに慣れていくことが重要である。No. 4 や No. 5 では、特定の場面での表現を正確に理解することが大切である。No. 6 や No. 7 のようなまとまりのある英語では、概要や要点を正確に把握するために、メモを取る等の工夫をして、必要な情報を聞き取る力を身に付けたい。

2 複数のまとまりのある英文を読んで、あらすじや大切な部分を読み取り、場面に応じて英語で適切に表現する力をみようとしたものである。

問1 与えられた日本語に合うよう、空欄に3語の適切な英語を書き、英文を完成させる問題である。正答は **has been to** となる。

問2 本文の内容に関する日本語の質問に日本語で答える問題である。Haruka の発言にある“**If the front door opens to the outside of the house, the door will not hit the shoes. So, front doors opening to the outside are good for houses in Japan.**”から、正答は、「ドアが靴にぶつからないから。」等となる。

問3 会話の流れと合うように、空欄を補う表現を選ぶ問題である。Haruka のスピーチにある“**Now, many people in those countries have other heating systems in their houses,**”と“**They don’t need to clean their houses in spring,**”から「暖炉を使う必要がない。」を意味する、**ウ**が正答となる。

問4 Haruka のスピーチの内容を読み取り、Haruka が、異文化を理解しようとするときにクラスメートに覚えていてほしいのは何かを答える問題である。本文の“**Different people have different ways of living. I think this is an important thing for you to remember to understand other cultures.**”を読み取り、質問文に答える形に直せるかをみようとした問題である。正答は **She wants them to remember that different people have different ways of living.**等となる。

問5 グラフをみて、自然な流れになるように、単語を正しい順序に並べかえて英文を完成させる問題である。正答は **(Well,) North America has more students from Japan than Europe (has.)**となる。この問題では、グラフから「北アメリカはヨーロッパより日本出身の学生が多い」ことを読み取ったうえで、比較級 **than** ~ の表現や、**many** の比較級 **more** の位置がポイントとなる。

問6 本文①～④の会話と発表の内容と合うように、示された英語に続く最も適切なものを選び、英文を完成させる問題である。(1)本文①において、Haruka の発言“**Your door opens to the inside of the house.**”に対して、Phil が“**That’s right.**”と述べていることから、正答は**イ**となる。(2)本文④において、Haruka の発言“**I will study a lot and think about my reasons for studying abroad, and then I will choose a country.**”から、正答は**エ**となる。

問7 本文の内容をふまえた自然な流れの1文になるように、空欄に3語の英語を書く問題である。空欄のある英文の次の発言に、“**I think there are many ways.**”とあり、「例えば、国際的なイベントに参加したり、イギリスに住んでいるあなたの友達に紹介してもらったりすることもできますね。」と続いていることから、「(もっと多くの海外の友達を) どうやって作ることができるか(教えてくださいか)」と質問している内容であることを予測すれば、正答の **how to make** 等を導くことができる。

3 まとまりのある英文を読んで、あらすじや大切な部分を読み取る力をみようとしたものである。

問1 単語を正しい順序に並べかえて英文を完成させる問題である。「(実際のところ、)それは(大きい魚の口)に泳いで入るのを恐れていないようにさえ見えた。」となるため、**(Actually), it didn’t even look afraid of swimming into (the large fish’s mouth.)**が正答となる。述語動詞の理解や、**look + 形容詞、afraid of + 名詞**等がポイントとなる。

問2 英文の流れと合うように、本文中の3つの空欄を補う文として適切なものを、それぞれ記号で答える問題である。①については、第2段落では、Tomoko の水族館での経験が述べられている。そして、①に続く文に「別の水槽に一匹の黄色い魚がいた。」とあることから、第2段落から話題が転換したことがわかる。以降第3段落ではTomoko が水族館でみたハゼとエビが同じ水槽に暮らす様子が述べられており、この段落の主題としてふさわしい選択肢、「それらを見た後、その水族館で、二匹の海の生物間に興味深い別の関係を見つけた。」という**ア**が正答となる。

②については、前文の段落第1文に「そのような関係は相利共生と呼ばれている。」と述べられている。続く文で「このことは、それぞれの側が何らかの方法でその関係から利益を得ていることを意味する。」とあり、②には第1文を説明する文があてはまるのが適切であることや、第3文が②の内容を言い換えていることがわかる。この第3文と同様の内容を表す「これらのような関係では、二つかそれ以上の種類の生物同士が食料や安全な場所やケア等をお互いに提供する。」という**カ**が正答となる。③について、第5段落では、第4段落で述べられた相利共生のもう一つの例としてエビとハゼの共生が述べられている。③の前までではエビとハゼそれぞれの得意なことと苦手なことが、③以降では両者が協力して危険な生物から逃れる様子が述べられており、「両

者には長所と短所があり、安全でいるためにお互いを支えている。」というウが正答となる。

問3 英文の流れに合うように、空欄にあてはまる最も適切なものを選んで、それぞれ正しい形に変えて答える問題である。[A]について、空欄のある英文中の、an animal [A] to eat themは、その後続くis coming.の主部である。また、[A]の直後にto eatとあるため、[A]は不定詞を目的語とする他動詞であり、かつ[A] to eat themで直前の名詞である主語のan animalを修飾する分詞の形になることがわかる。an animal [A] to eat themは前文のa dangerous animalを言い換えた表現であることから「それらを食べようとする」という意味になるtryを選び、現在分詞の形にしたtryingが正答となる。[B]については、空欄のある英文が“The shrimp can stay safe with the goby’s help, and the goby can hide itself in the house [B] by the shrimp.”であることから、in the house [B] by the shrimp.が副詞句で場所を表すことがわかる。また[B] by the shrimpが直前の名詞the houseを修飾し、直後にby～と続くことから、[B]には他動詞の過去分詞形か自動詞の現在分詞形となることがわかる。第5段落、第3文、第4文に“The hole is their house. The shrimp is very good at digging holes,”とある。ここではmakeを選び、「ハゼはエビが作った(によって作られた)家(穴)に身を隠すことができる」というmadeが正答となる。

問4 本文の内容に関する日本語の質問に対して日本語で答える問題である。I learned thisに下線が引かれており、Tomokoが学んだことの中でthisの内容を答えればよい。Tomokoが学んだ内容は“some different kinds of animals live together by helping each other.”である。by ~ingは「～することによって」であるため、「お互いに助け合うことによって」となる。従って、正答は「お互いに助け合って、一緒に生きている異なる種類の動物もいるということ。」等となる。

問5 本文の内容に関する英語の質問に英語で答える問題である。「なぜ大きな魚との関係は、ホンソメワケベラにとってよいのか。」という質問に対して、第4段落に“This relationship is also good for the cleaner fish. The large fish goes to the cleaner fish for help, so the cleaner fish can get food easily just by swimming around the large fish.”とあることから、Because it can get food easily just by swimming around the large fish.等が正答となる。

問6 本文の内容をまとめた英文の空欄に、適切な英語をそれぞれ2語で答える問題である。正答例として、(1)については、It would be dangerous for the small fish to swim near the large fish, but the small fish (1) because the large fish knew the small fish would help it. とあることから、まずthe small fishを主語とする述語動詞を含む語が入ることがわかる。また、butで接続されていることから、(1)には直前の節の反対の内容を表す表現が入ることもわかる。本文の第2段落でのTomokoの、“Is it safe for the small fish to swim around the large fish?”に対して、水族館のスタッフが“Don’t worry.”と答えていることから、「小さな魚は安全だった」となるwas safe等が正答となる。(2)については、本文の第5段落に、“It can swim fast, but it cannot swim very far.”とあり、swim fastの言い換えであることがわかる。(2)の直前に“a”があることから、名詞のfast swimmer等が正答となる。(3)については、本文の第5段落に、The goby looks around carefully. As soon as the goby finds a dangerous animal, it gives a sign to the shrimp.とあることから、ハゼが辺りを見回すのは危険な動物を発見するためであることがわかる。そのため、to find等が正答となる。

様々なテーマや分野に関するまとめた長さの英文を読み、理解が不十分と思われる事項の確実な定着を図りたい。

4 小学生の自然体験についての英文を読んで、与えられた条件と記入上の注意に従い、まとめた内容を英語で適切に表現できるかをみようとしたものである。「小学生はもっと自然の中で多くの時間を過ごすべきだ。」という意見に対して、例えば、I agree with this.やI don’t think so.のように書いて自分の立場を明らかにし、さらにその理由がわかるように全部で40語以上50語程度の英語でまとめることがポイントである。

正答にならなかった解答では、目的語がない、補語がない等の動詞の誤用が最も多くみられた。また、[elementary]や[environment]等の綴りの誤りや、冠詞や大文字・小文字の誤り、品詞の誤用等がみられた。

問題に正対し、適切な表現を用いて内容に一貫性のある文章を書けているかということに注意を払いたい。また、文のつながりや展開等にも意識を向け、自分の考えや理由等が読み手に正しく伝わる文章を書く力を充実させたい。